



「和白干潟・秋の響」きりえ：くすだ ひろこ

和白干潟のラムサール条約署名第2弾を始めます！

新年 おめでとうございます！！

2016年1月

和白干潟を守る会の保全活動は今年で28年になります。会員の皆さまとともに続けることができました。大切な和白干潟の自然を未来の子どもたちに残すために、自然観察会や和白干潟まつり・クリーン作戦・鳥類、水質、砂質調査・和白干潟通信やパンフレットの発行・ホームページでの広報などの多くの活動です。昨年からは新たに「和白干潟の四季の自然さがし」を始めました。観察会ガイドの勉強や会員増加を目指しています。活動への企業や学校の参加が増えました。和白干潟を守る会の保全活動が日本ユネスコ協会連盟により「プロジェクト未来遺産」に登録され、保全の思いを新たにしています。「山・川・海の流域会議」では、立花山・唐原川・和白干潟の保全7グループが連携して、立花山から和白干潟の集水域保全活動を続けています。ミヤコドリは今冬は過去最高羽数の17羽が和白干潟に来ており、クロツラヘラサギは19羽を確認しています。西日本新聞には「良かね！和白干潟の四季」の連載記事が10回になりました。

第1弾のラムサール署名は、昨年1月に福岡市長と環境大臣に提出しました。2回に分けましたが合わせてそれぞれ約1万名分でした。福岡市はなかなか和白干潟のラムサール条約登録に前向きではありません。今回は第2弾として福岡市議会議長あての請願署名にいたします。昨年11月の和白干潟まつりから署名を始めました。全国の皆さまもぜひこのラムサール署名にご協力をお願いいたします。

2016年を迎え、世界の湿地や干潟の保全が進むことを心から願っています。今年も和白干潟を守る活動に、皆さまのご協力をお願いします。多くの方々が和白干潟の環境保全活動に参加し、和白干潟がぜひ「ラムサール条約登録湿地」となることを願っています！今年もどうぞよろしくお願いいたします！

和白干潟を守る会 代表 山本 廣子



第27回 和白干潟まつり開催（11月22日）

2015年11月22日（日）11：00～15：15、「第27回和白干潟まつり」はほどよいお天気に恵まれて暖かく、多くの方々に参加していただき大成功でした！約450名の参加がありました。暖かかったので、皆さん笑顔で楽しく参加していました。暖かいということで、堆積アオサが腐り広場付近の沿岸はぬかるし、匂いがしていました。私たちの生活が干潟を傷めていることに、参加された皆さんも目が向いたのではないかと思います。反省会や後片付けなど、最後まで力を合わせて頑張ることができました。お疲れ様でした。（実行委員長：山本 廣子）



開会式

司会は森 文子さん、開会挨拶は山本実行委員長。今年も市長からのメッセージが届き、高田さんが代読。議員4名応援挨拶も。

バードウォッチング

野鳥の会の田村さん、成田さんの指導で観察開始。過去最高55種の鳥を見ることができ、歓声があがっていました。

自然遊び

自然観察指導員の堀講師の指導で大人10人、子ども6人が参加。植物の不思議な力、自然の面白さを体験しました。



植物観察

福岡植物友会の野村講師の指導で20名が参加。今年は暖かい気候のためか花が終わり、実になっている植物が例年より多かったようです。

干潟の生きもの観察

大人13人、子ども17人の参加。藤井講師のわかりやすい説明で、貝類6種、カニ類5種を観察。時間を忘れるくらい楽しみました。

コーラス

「うたごえサロン」参加者を巻き込んで楽しい合唱となって、盛り上がりました。ウクレレの伴奏で11名が「花は咲く」など3曲を歌いました。



器楽演奏

「モジャッコ」

オカリナとギターの2人で「上を向いて歩こう」など6曲を演奏しました。やさしい音色にうっとり。

ミニシアター

「福岡東部子ども劇場」

見せるわらべ歌「おおさむこさむ」や手遊び「こおろぎころころ」などを2名で演じました。観客も参加のステージです。

紙芝居

（干潟だいすき）

森文子さんが脳トレになる手遊びを紹介し、山本代表原作の和白干潟の絵本の紙芝居をしました。

ラムサール条約登録を目指して... 450人参加 (高田 将文)



マジックショー

「マジック1・2・3・4」の皆さんと山本代表のマジックショー。



一言アピール

日頃市民にはあまり入ってこない情報などもありました。



手をつないで

50名が童心に帰って歌いながら踊り、和臼干潟への思いを表しました。



干潟の掃除

35名が参加。海の広場から和臼方面のアオサを15袋集めました。



写真展・パネル展

立ち止まって見る人も多く、和臼干潟での活動を広く知ってもらえました。和臼干潟に来る鳥の写真が好評でした。東日本大震災で被災した「蒲生干潟」のその後のパネルもありました。



模擬店・バザー

バザーは出店・出展が昨年より増え、20店舗。たのしく売り上げました。



ラムサール宣言

田浦さんによる力強い「ラムサール宣言」、来年もがんばろうと締めくくりました。

第27回和臼干潟まつりラムサール宣言

(抜粋)

1. 私たちは、これからも大切な和臼干潟の保全活動と環境保全の啓発活動を続けていきます。
2. 福岡市に、条件の整っている和臼干潟を中心に「博多湾・和臼干潟ラムサール条約登録」を国に申請することを求めます。
3. 福岡県に、「博多湾・和臼干潟のラムサール条約登録」を、福岡市、環境省に働きかけることを求めます。
4. 環境省に、「博多湾・和臼干潟のラムサール条約登録」に早急に取り組むことを求めます。

2015年11月22日

第27回和臼干潟まつり参加者一同

福岡市長からのメッセージ (要旨)

「和臼干潟まつり実行委員会」の委員の皆様をはじめ、参加者の皆様におかれましては、日頃から清掃活動や多彩な環境啓発など、和臼干潟の環境保全活動に熱心に取り組んでいただき、厚くお礼申し上げます。市民手づくりの「和臼干潟まつり」は、ふくおかの自然に楽しみながら触れあうことにより、環境保全の重要性を再認識することのできる取り組みとなっております。このような活動を27年にわたり継続されていることにあらためて敬意を表します。本日の「和臼干潟まつり」を通して、今まで以上に生物多様性保全の取り組みの輪が広がっていくことを祈念いたします。

平成27年11月22日

福岡市長 高島 宗一郎

和白干潟の自然だより（秋～冬）

（山本 廣子）

ハマボウの紅葉 福岡県絶滅危惧Ⅱ類 アオイ科

海水の影響を受ける河口や海岸の砂泥地に生える落葉低木です。河口域の開発や護岸工事により自生地が減少しました。福岡県内では糸島市雷山川下流の群落地が有名です。7月下旬から8月上旬に、直径6cm程の黄色の花が次々に咲きます。和白干潟の沿岸では20年ほど前に牧の鼻の海岸で1株を見つけました。その後増えて、今では250株の大群落地になりつつあります。その後も自生地を広げており、唐原川河口や海の広場付近でも黄色い花を咲かせました。昨年10月に大型の台風が福岡を直撃し、海の広場沿岸に育っていたハマボウの木は枝が大きく裂けてしまいました。和白干潟を守る会の3名の会員が、このハマボウの木に添え木をしてひもでしっかりとつなぎ、守りました。ハマボウの木は11月には美しく紅葉して、お返しをしているようでした。



ハマボウ

ホトトギスガイ イガイ科 殻高20mm 殻長7mm



ホトトギスガイ

2015年秋にも和白海域ではアオサが大量発生しました。例年は福岡市港湾局が9月には和白海域沖合でアオサを回収していましたが、15年は11月に入ってからやっと少し回収しました。アオサは北西の季節風で沿岸に吹き寄せられて厚く積み、腐ってヘドロになります。アオサが積もった場所では、ホトトギスガイも大量発生しています。互いに足糸を絡ませてマット状になり泥の表面を覆います。茶色の縞模様が野鳥のホトトギスの羽の模様に見えることから名前がついたそうです。富栄養化した海域に大量発生します。殻は薄くてカモ類の餌にもなります。和白干潟では寒くなりアオサが消えると、ホトトギスガイも目立たなくなります。

ハシビロガモ カモ科 全長：50cm

冬鳥として和白干潟に訪れていますが、羽数は多くは無く30羽程が見られます。ハシビロガモはカモ類の中では口ばしが特に幅広く大きいです。上下の口ばしが合わさる内側にある歯ブラシ状のもので水中のプランクトンをこし取って食べるそうです。数羽の群れで水面をぐるぐると円を描くように泳ぎ回りプランクトンを集めて、扁平な口ばしを左右に振りながら水ごと吸いこんでいる様子は興味深い光景です。雄の羽の色は特に美しく、目立ちます。



ハシビロガモ

★ 冬の和白干潟のしぜん ★

アシ原：冬のアシ原ではセンダンやシャリンバイなどの木の実が生り、シロハラやツグミが見られ、ウグイスの地鳴きが聞こえてにぎやかです。早春になるとハマダイコンの花が咲き出し、ハマウドやハマニンニクが伸びて、ハママツナなどの新芽も伸びてきます。

干潟：11月下旬に大量のアオサが沿岸に漂着して腐りますが、その後は低温のためにアオサは分解します。ヒドリガモが緑色のアオサを食べて緑色の糞を干潟に落としています。北西の風が吹きつけ白波が立ち、干潟には波模様が美しく残ります。カモやシギの足跡が干潟にたくさん残っています。ウミナも砂に潜ります。

水鳥：11月にはクロツラヘラサギが最大19羽飛来し、12月には冬鳥がそろいます。ミヤコドリは2015年12月現在17羽で過去最高羽数です。ツクシガモは236羽。カモやカイツブリ、カモメ、シギ・チドリの仲間など、冬は水鳥が最も多い季節です。

150万都市福岡に自然と共生する「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録」を！ 請願署名を始めます！

福岡市長、環境大臣に対しての2年間にわたる署名活動で、皆様から多大なるご支援やご協力をいただきましたが、2015年の登録は実現できませんでした。2018年登録を目指し、再び福岡市議会に対する請願署名活動に取り組みます。1月からは街頭署名活動も行います。

皆様のご協力、ご支援をぜひお願いします。署名は2016年12月まで、1万名超を目標に取り組みます。用紙はコピーして署名を広げていただきますようお願いいたします。

山・川・海の流域会議 秋のイベント

和白干潟の探検!「干潟にはどんな生きものがいるだろう?」

10月10日、26名が唐の原川左岸干潟に集合。山本代表からイベントの趣旨や和白干潟についての話があり、筑前立花会の南部さんから立花山の歴史や名前の由来を聞きました。バードウォッチングでは、クロツラヘラサギ、ヒドリガモなどを見ました。ウラギクの花、ハマボウ、ハママツナ、秋に赤くなる塩生植物のイソホウキギなどの植物、アシハラガニやケフサイソガニがいて、ヤマトオサガニの複数の穴が繋がっていることを確認しました。絶滅が心配されているシバナには穂がついていました。(有江)



香住丘小学校5年生に講演

11月5日、「和白干潟を未来へ! 和白干潟の自然と環境保全活動」と題し、山本代表が講演しました。163名の生徒は1時間半の長い間途中休みもなく、静かにお話を聴きました。「私たちの生命にとって大切な地球の自然を守ることや、守りたい気持ちを他の人たちに伝えることも大切なことだと思います。是非みなさんも自分に出来る自分らしいやり方で環境保全活動を行ってほしいと思います。」という素晴らしい講演でした。(河上)

バードウォッチングin 和白干潟 2015

12月5日、和白干潟保全のつどい主催の冬のイベント・バードウォッチングが開催され、36名の参加がありました。

守る会の山本さんが紙芝居を使って詳しく和白干潟の冬鳥について説明しました。30分あまり望遠鏡や双眼鏡などで、バードウォッチング。たくさんのカモ類を観察でき、皆満足そうでした。「実際に望遠鏡や肉眼で見て、鳥たちに関心が湧いた」という若者や、「こんなにたくさんの種類の鳥がいることがわかってよかった」と子どもの声もありました。(今村)



和白干潟を守る会へのご支援ありがとうございます!!

- 10月22日 「博多湾の自然を守る会」様より寄付金をいただきました。
- 10月27日 「キャノンマーケティングジャパン」様より寄付金をいただきました。
- 11月30日 「住友ゴム工業(株)」様より応援金をいただきました。観察会やクリーン作戦に「ダンロップタイヤ九州(株)」の社員やご家族が参加されました。
- 12月11日 「MS & ADインシュアランスグループ」様より寄付金をいただきました。観察会やクリーン作戦に社員やご家族が参加されています。

気が付いたらあなたも電話してください!

海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分でゴミを拾った時

092-282-7146 (港湾局維持課)

沖のアオサをとってほしい時

092-282-7153 (港湾局環境対策課)



** お 願 い **

干潟でのゴルフやラジコンやドローンは危険です。やめましょう!

干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう!
 (ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止)

犬のフンの始末は飼い主がしましょう!

弱った野鳥を見つけた時

092-513-5611

福岡県筑紫保健福祉環境事務所(地域環境課)

092-643-3367

福岡県環境部自然環境課野生生物係

2015年9月

- 9/3 (木) 第27回和白干潟まつり第1回実行委員会
和白干潟通信116号編集会議
- 9/6 (日) 2015年秋期シギ・チドリ調査2回目(今津)
- 9/8 (火) ちどり保育園年長児の和白干潟観察会
- 9/10 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 9/11 (金) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 9/12 (土) 山・川・海の流域会議
アオサのお掃除大作戦2回目(保全のつどい)参加
- 9/13 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
2015年秋期シギ・チドリ調査2回目(博多湾東部)
- 9/22 (火) 和白干潟通信116号編集会議
- 9/24 (木) 筑陽学園中学3年生の和白干潟観察会
2015年秋期シギ・チドリ調査3回目(今津)
- 9/26 (土) 定例会議・国際ビーチクリーンアップ参加の和白干潟
クリーン作戦と自然観察
- 9/29 (火) 2015年秋期シギ・チドリ調査3回目(博多湾東部)

2015年10月

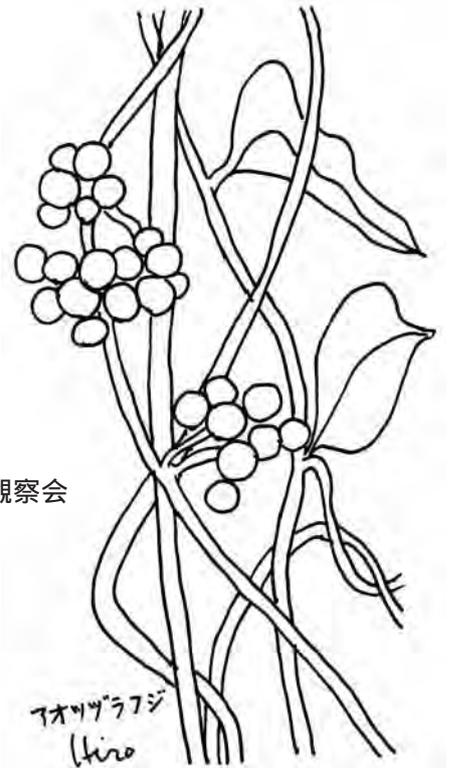
- 10/6 (火) 香椎保育所さくら組の和白干潟観察会
- 10/8 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 10/10 (土) 山・川・海の流域会議主催「和白干潟の探検」
アオサのお掃除大作戦3回目(保全のつどい)参加
- 10/11 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
イオン黄色いレシートキャンペーン
- 10/13 (火) 和白干潟通信116号発送会
- 10/17 (土) MS&ADグループの和白干潟観察会とクリーン作戦
- 10/18 (日) 「チームエナセーブ未来プロジェクト・ダンロップ」
グループの和白干潟観察会とクリーン作戦
- 10/22 (木) 香椎東小学校5年生の和白干潟観察会
- 10/24 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 10/27 (火) 秋の和白干潟の自然さがし・柏陵高校1年生の和白干潟観察会

2015年11月

- 11/2 (月) 第27回和白干潟まつり第2回実行委員会
- 11/5 (木) 香住ヶ丘小学校「和白干潟の自然と環境保全活動」講演
- 11/7 (土) ウォールレスジャパンの和白干潟観察会
- 11/8 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 11/11 (水) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 11/12 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 11/14 (土) 山・川・海の流域会議
- 11/22 (日) 第27回和白干潟まつり
- 11/28 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 11/29 (日) 精華女子短大の和白干潟観察会

和白干潟の2015年5大ニュース

1. ミヤコドリ過去最高の17羽が飛来。
 2. 「和白干潟の四季の自然さがし」を始めた。
 3. 和白干潟まつりが27回開催で450名が参加。
 4. 「日本自然保護大賞」に入選。
 5. クリーン作戦への企業や学生の参加者が増えた。
- (2015年12月25日の望年会にて)



アオサガラフジ
hiro

干潟のつばやき「いつもお掃除ありがとう!」

干潟に漂着した空き缶やプラスチックごみ、また大量発生するアオサはアサリ貝を大量死滅させ、干潟の生き物を傷めます。毎月、これらのゴミを取り除いてくれる人々がいます。11月の下旬、北西の季節風で物凄い量のアオサが浜辺に打ち寄せていました。この大量のアオサを回収する集団がいます。環衛サービス(株)、福工大附属城東高校生、九州産業大学宗像ゼミの学生の皆さんです。浜辺に堆積したアオサをソリに乗せ、何度も運んでいます。小一時間すると、4トントラック2台分ほどのアオサが取り除かれました。干潟の生き物たちを救ってくれてありがとう。いつも干潟の掃除をしてくれています。みなさん、本当にありがとう!(山之内)



九州産業大学宗像ゼミの皆さん



環衛サービスの皆さんと



城東高校の皆さん

和白干潟の観察会報告

(山之内 芳晴)

10月6日(火) 香椎保育所さくら組 47名

雲一つない秋の日の観察会、子どもたちは山本さんの生き物がついた手袋の挨拶に目が釘付けになり、熱心に干潟の話を聞いていました。バードウォッチングでは、パンフレットの写真と比べながら鳥の名前を確認、アシ原ではカニを見つけ「いた、いた」と大喜び。沖合いでは子どもたちは楽しそうにアサリ掘りを行いました。暖かくて貝の浄化実験も大成功。(有江)



10月17日(土) MS&ADグループ 101名

和白干潟の紹介や守る会の保全活動について話した後、バードウォッチング。アシ原ではアシハラガニを捕まえ、干潟ではコメツキガニを小さなスコップで掘り出して親子で喜んである姿には、思わず「良かったね」と声をかけました。最後はクリーン作戦、砂洲付近に置いていたソリや一輪車などにアオサをいっぱい積んで運んでもらいました。回収したアオサは100袋、みなさま、お疲れさまでした。(田中)

10月18日(日) チームエナセーブ未来プロジェクト・ダンロップグループ 47名

快晴での観察会、ミヤコドリやクロツラヘラサギ、オオソリハシシギなどを見られました。干潟ではコメツキガニやウミニナ、オサガニなども見ることができました。少し沖に出てアサリを掘り、最後に水路付近でアシハラガニやクロベンケイガニを捕まえました。クリーン作戦もソリやリヤカーを使ってアオサの回収がスムーズに行われ、参加人数のわりには多く回収できました。(河上)



10月22日(木) 香椎東小学校5年生 164名



紙芝居を見せながら和白干潟を紹介、次はバードウォッチング。クロツラヘラサギやミサゴなどを、歓声をあげて次々に望遠鏡で覗いていました。その後アシハラガニを観察、干潟ではカニの穴をスコップで掘ってコメツキガニが穴から出るのを見て大騒ぎ。さらに沖に出て貝掘りをして、最後にハクセンシオマネキを見ました。貝やウミニナの海水の浄化実験も大成功でした。(松田)

10月27日(火) 秋の和白干潟の自然さがし 13名

望遠鏡で鳥の観察をした後、ウラギクの花や赤いクコの実を見ながらアシ原へ入ります。足元にクロベンケイガニやアシハラガニが歩いています。アシ原では、たくさんの秋の植物を観察しました。アシ原から干潟へ出ると、オオバンやヒドリガモが群れをなしています。アシ原前でしばしばバードウォッチング。たくさんの鳥や秋の豊かな実りに出会えた楽しいひとときでした。(有江)



10月27日(火) 福岡県立柏陵高等学校 44名



小雨の中、紙芝居を使いながらカニや鳥などの紹介。バードウォッチングでは、クロツラヘラサギ、オオソリハシシギ、カモなどを見られました。その後アシ原でアシハラガニを探し、干潟の沖ではアサリやウミニナ採り。最後に、広場に帰りながらそれぞれがソリ一杯にアオサを載せて、一生懸命に運んでくれました。おかげさまでゴミ袋約30個分くらいの回収でした。(田中)

新年度の会費納入をお願いします!

今年も和白干潟を守る会の一員として、和白干潟の自然を守る活動のためにお願いします。

年会費 個人2,000円、団体5,000円

郵便振替 01720-4-23860

和白干潟を守る会

同封の振替用紙をご利用下さい。

郵便局の受領書を領収書に替えさせて

頂きます。

行き違いの際はご容赦下さい。

守る会問い合わせ窓口

ホームページ <http://wajirohigata.sakura.ne.jp>

入会 / 観察会 (申込等)

山之内 芳晴

Tel. 090-8412-2663

クリーン作戦

田辺 スミ子

Tel. 090-1346-0460

会費

田中 貞子

Tel/Fax. 092-606-5588

干潟まつり

今村 恵美子

Tel/Fax. 092-942-5282

広報 / 調査 / 定例会議

山本 廣子

Tel/Fax. 092-606-0012



冬の和白干潟の自然さがし

冬にはどんな宝物が見つかるでしょうか？

とき：1月26日(火) 受付9:50 開始10:00～12:00 大潮 満潮11:27 干潮 16:53
集合：和白干潟海の広場(福岡市東区和白4丁目海岸) 参加費：無料 雨天中止、小雨決行
持ち物：ルーペ、筆記具、飲み物、あれば(双眼鏡) 服装：長そで、長ズボン、帽子、長靴
主催：和白干潟を守る会 問い合わせ：TEL：090-1346-0460(田辺)

和白干潟を守る会2016年度総会を開催します！

日時：2月27日(土) 10時半～13時 場所：和白干潟を守る会事務所

総会では前年度の活動報告や会計報告を行い、新年度の活動方針やスケジュール、予算、役割分担などをみんなで意見を出し合い、決定します。(2月臨時定例会議を引続き開催します)

定例スケジュール



定例会議(1/23, 3/26)

毎月第4土曜日10時半～13時 守る会事務所にて開催。
時間変更などの事前確認をして、ご参加下さい。
和白干潟を守る会事務所・・・福岡市東区和白1-14-37きりえ館1階

会員募集中！
年会費 個人 2,000円
団体 5,000円
カンパの協力お願い
郵便振替 01720-4-23860
和白干潟を守る会

以下は参加自由です。仲間が待っています！

クリーン作戦と自然観察(1/23, 2/27, 3/26)

毎月第4土曜日15時～17時 和白干潟・海の広場集合
長靴があると便利。駐車場なし。



ボランティアへのお誘い
和白干潟を守る会のボランティア活動に参加して、新たな自分を見つけませんか？あなたの経験や知識や技術が、きっと活かされますよ！

和白海岸探鳥会(2/14, 3/13, 4/10) 主催：日本野鳥の会福岡支部

毎月第2日曜日9時～12時 JR和白駅前の和白公園集合 参加費：野鳥の会会員 100円、一般 300円

和白干潟の鳥たち(その73)

ミヤコドリ(チドリ目ミヤコドリ科 Oystercatcher) 都鳥 [全長45cm]

【福岡県絶滅危惧 類】江戸時代(1738年)の「筑前國産物絵図帳」に「みやこどり」の絵が記載されていて、江戸時代から博多湾東部の香椎潟付近に飛来していたことが記録されています。1980年代までは博多湾和白干潟が全国で唯一の定期的渡来地であったため、全国のバードウォッチャーがミヤコドリを見るためにやってきていました。現在は東京湾や伊勢湾で大きな群れが越冬するようになりましたが、和白干潟の生息地としての重要性に変わりはありません。冬鳥として和白干潟を訪れて越冬しています。黒と白の体に赤くて長いくちばしが特徴的です。干潟や砂浜や岩礁に生息して、アサリやカキなどの二枚貝を食べます。昨年の2015年秋には17羽が飛来し、過去最高羽数になりました。和白干潟を守る会会鳥に指定しています。(山本 廣子)



(写真撮影：三宅 僚)

【編集】高田 将文・山本 廣子・山之内 芳晴・田辺 スミ子・今村 恵美子

<カット>くすだ ひろこ 次号は2016年4月発行予定



【編集後記】生のアオサを畑の畔に直まきすると、作物の味が深くなります。堆肥化するよりも簡単に塩分も問題ないそうです。和白干潟のアオサを使った大分の果樹生産者の方々の情報がフェイスブックで知れ渡り、柿農家の方が遠くから2回も取りに来られたり、干潟を守る会のメンバーも家庭菜園に利用し、干潟まつりで和白ねぎはあっという間に完売しました。(今村 恵美子)